

信州大学山岳研友の会現地研修会報告

信州大学山岳研究所友の会第16回現地研修会が9月5-7日に裏磐梯にて実施されました。長野県上高地の山岳域における山岳性アザミウマ類の調査などでお世話になっている信州大学理学部の東城幸治先生（山岳研の研究員を兼任）からの依頼もあり、研修会でプロジェクトを紹介する機会を頂きました（プロジェクトからは塘と塘研究室大学院生の志賀が参加しました）。以下に研修会の様子を報告します。

5日に長野県松本市を大型バスで出発した一行（山岳研の研究者3名と友の会メンバー合わせた約30名）は、夕方15:30頃、裏磐梯桧原湖北部の宿に到着し、16:00から早速勉強会「裏磐梯の自然と人間～福島大学磐梯朝日遷移プロジェクトが目指すもの～」が開始されました。塘が裏磐梯や翌日に一行が登る磐梯山の歴史、自然、裏磐梯地域が抱える問題などとともにプロジェクトの目的を紹介し、毘沙門沼の水の色、裏磐梯（特に株式会社ニチレイ社有地）の生物相、猪苗代湖の湖底ボーリングで得られた知見など、これまでに得られた成果を50分ほどでお話ししました。発表後、様々な質問やご意見を頂戴しました。さすが全国の山や自然に親しんでおられる方々だけに、するどいご指摘も頂きました。

翌日（6日）は5:00に朝食を頂いた後、八方台～磐梯山～裏磐梯スキー場のルートで磐梯山に降り、その後、五色沼探勝路を散策し、宿に帰ってきました。私たちのプロジェクトに対しては、登山の最中や往復のバスの中、そして夜の懇親会でもさらに多くの示唆に富む情報やご意見を頂くことができました（外来種問題や遷移の進行に対する上高地での対策など）。これらのご意見は談話会などの場で皆さんに紹介していきたいと思えます。

7日は朝から裏磐梯で自転車競技（ヒルクライム大会）が開催されるため（桧原湖東岸の一部が午前中通行止めになる）、朝食を頂いた後、一行は7:00には宿を立たれました。5日と7日は雨でしたが、6日は晴天に恵まれ、友の会の皆さんは磐梯山の勇壮な姿、山頂からの猪苗代湖や吾妻山系の眺望、そして銅沼の絶景、五色沼の水の色を堪能されていました。裏磐梯の自然の素晴らしさを皆さんからお褒め頂き、私たちもとても嬉しくなりました。それと同時にこの自然を守っていかなければならないとの思いをさらに強くした3日間でした。



磐梯山山頂でくつろぐ友の会メンバーの皆さん。早足のメンバーが到着された時(8:30頃)の山頂は、まだガスに覆われて景色は何も見えませんでした。



9時45分頃にはガスがなくなり、360度の眺望を楽しむことができました。これは弘法清水下のお花畑から見た銅沼と裏磐梯スキー場の様子です。